平成 30 年度　長崎市自然環境調査報告書：植物

長崎市自然環境調査委員　中西　弘樹

１　新しく発見された長崎市新産のもの

○ハママンネングサ（ベンケイソウ科）

本種は、「長崎県植物誌(1980 年)」には小浜町と男女群島に記録されていますが、その後小浜町では発見されていません。諫早市飯盛町でも生育していると言われたこともありますが、私が調べた範囲ではナガサキマンネングサの葉の幅広いタイプでした。したがって、ハママンネングサは長崎県では男女群島のみが唯一の生育地と思われてきました。しかし、最近になって男女群島のものは新種であることがわかり、ダンジョマンネングサと名付けられました。したがって、ハママンネングサは長崎県には分布していないと思われてきました。今回、長崎半島の先端部近くの海岸崖地に本種を発見することができ、長崎県にハママンネングサが確実に分布していることが明らかになりました。本種は琉球列島から鹿児島県西部、熊本県天草を経て、長崎半島まで分布し、西廻り分布型植物と言えます。生育している海岸は人が容易に近づけない崖地で、今後県内でもこのような立地に発見される可能性があります。他のマンネングサ類とは、枝が三叉にわかれるというはっきりした特徴がありますし、5 月に花が咲いた後は、枯れてしまいますので、夏から秋にかけては姿を消してしまうことも他の県内のマンネングサ類とは違います。環境省のレッドリストでは準絶滅危惧種に指定されています。長崎県および長崎市では新たにＩＢ類の候補となります。

図１．ハママンネングサ

○サツママンネングサ（ベンケイソウ科）

海岸の崖地に生育し、葉の形はナガサキマンネングサとそっくりで区別できません。しかし、ナガサキマンネングサは葉が互生ですが、本種は対生であることで区別できます。しかし、この性質も、はっきりしない枝もあり、多くの枝を観察する必要があります。今のところ、長崎県では長崎市南部のみに分布

図２．サツママンネングサ

しています。長崎県および長崎市では新たに準絶滅危惧種の候補となります。

○ノリウツギ（アジサイ科）

本種は雲仙山系を中心とする島原半島に分布し、多良山系には見られません。しかし、西彼杵半島の谷間の湿地に生育している個体を発見することができました。スギの植林地に隣接していますので、本来の野生かどうか少し疑わしいのですが、ノリウツギは湿地を好んで生育し、生育地周辺もスギの植林となる前は、湿地があった所ですので、野生のものがあっても不思議ではありません。

図３．ノリウツギ

○マルバテイショウソウ（キク科）

以前から長崎県では唯一長崎市で知られていたものですが、長崎市のレッドリストには掲載されていませんでした。中国南部と日本では高知県、鹿児島県、宮崎県、熊本県と長崎県の長崎市に分布しているもので、他の分布域と長崎市の生育地が離れていますので、本来の自生かどうか疑問視されていました。しかし、2ヵ所に生育地があり、観察結果、自生と見なすことができると判断し、ここに掲載することにしました。大変貴重な生育地ですので、是非保護したいものです。長崎県ではＩＢ類に指定されており、長崎市レッドリストでもＩＢ類の候補となります。

図４．マルバテイショウソウ

○クモラン（ラン科）

小型の着生ランで、葉もなく、茎もほとんど発達しておらず、緑色をした根が八方に広がった形をしており、クモのように見えることから名づけられたものです。本来は高い木の枝先に着生するようですが、人里に植えられているウメノキなどの樹皮にも生育しており、もっぱらこのような生育地のものだけが発見されています。長崎県ではＩＡ類に指定されており、長崎市レッドリストでもＩＡ類の候補となります。

図５．クモラン

○ナヨテンマ（ラン科）

葉もなく、葉緑素をもたない腐生ランで、晩春に花茎をのばし、目立たない花を咲かせます。やや湿った照葉樹林内に生育し、スギの植林内にも生育することがあります。長崎市北部の山中で発見することができました。環境省のレッドリストではＩＢ類、長崎県ではＩＡ類に指定されており、長崎市レッドリストでもＩＡ類の候補となります。

図６．ナヨテンマ

２　新しく発見された外来植物

○シマトネリコ（モクセイ科）

東アジアの熱帯から亜熱帯に分布する常緑高木で、日本では沖縄県に生育していますが、街路樹や庭木として各地に植えられるようになりました。種子は風散布で、周辺地域の放棄畑や河川、道路の側溝などに野生化するようになりました。かなり前から一部野生化していることに気づいていましたが、温暖化のためか最近あちこちでよく見られるようになりました。まだ多くが低木状で、まれに亜高木となったものもありますが、高木になると在来種にさらに悪い影響をあたえると考えられます。市内では東長崎地域に多いようです。

○リュウキュウシロスミレ（スミレ科）

琉球列島と九州南部に分布しているものが、県民の森の法面に群生しているのを発見することができました。法面の芝張りに伴って、分布域からもたらされたものと思われます。和名はシロスミレの名称がつけられていますが、白地に紫色の筋がはっきりし、全体に薄紫色に見えます。全体に紫色がかったものから、白に近いものまであり、花の色や葉の形に変異が多いことが知られています。自生地でも人里や市街地に多く、人為的に運ばれやすい植物と言えます。

図７．リュウキュウシロスミレ

○キクザキリュウキンカ（キンポウゲ科）

ヨーロッパ原産の多年草で、園芸種も知られていますので、それが野生化したものと思われます。北日本に多いリュウキンカに似ていて、3 月中旬から光沢のある黄色の花を咲

図８．キクザキリュウキンカ

かせ、遠くからでもよく目立ちます。琴海戸根原町赤水の空き地に群生していました。

３　発見された貴重植物

○コウラボシ（ウラボシ科）

海岸近くの崖地にまれに生育するシダ植物で、長崎半島の先端部に、約１平方メートルの範囲にわたって群生しているのが発見されました。根茎で繁殖するので群生するのがふつうですが、小型の植物ですので、このように大きい群落は珍しいと思われます。

○ツチトリモチ（ツチトリモチ科）

図９．ツチトリモチ

長崎県内では長崎市と多良山系にのみ知られているもので、市内では県民の森と八郎岳に産します。県民の森とは違う長崎市北部の森林内にあちこち生育しているのを発見することができました。生育地はいずれもアカガシ二次林で、落葉が多く堆積し、周辺地域ではウスキムヨウランやムヨウランが生育しているやや湿った環境です。冬期にはこのような林に入って調査をすることはほとんどありませんので、これまで発見されなかったのでしょう。長崎県レッドリストでは準絶滅危惧種に指定されており、長崎市のレッドリストでも準絶滅危惧種の候補です。

○ヘツカニガキ（アカネ科）

ヘツカニガキは鹿児島県の辺塚で発見されたことによる和名で、長崎県が北限の亜熱帯性の植物です。県内にあちこち生育していますが、生育地は限られています。長崎市内では小浦町、布巻町、脇岬町に発見することができました。長崎市レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

○ツチアケビ（ラン科）

図 10．ツチアケビ

腐生ランで県民の森ではかなり以前から見られましたが、それ以外の市内にはごく稀です。旧市内で 30 年ほど前に発見しましたが、同じところで再び発見することができました。長崎県のレッドリストではⅡ類、長崎市ではＩＡ類に指定されています。

○ボウラン（ラン科）

樹木や岩に着生するランで、長崎県では諫早公園に多いことが知られていますが、それ以外の地域では稀です。市内では岩上に生育し、小江小浦の海岸崖地にも生育し

ているのを発見しました。環境省と長崎県のレッドリストでは準絶滅危惧種に指定されており、長崎市のレッドリストではＩＢ類に指定されています。

〇ノコギリヘラシダ（イワデンダ科）

ヘラシダとナチシケシダの種間雑種で、県内に稀に見られ、長崎市内ではこれまで園田町でのみ確認していましたが、長浦町でも発見することができました。葉身はヘラシダと同様に線形ですが、和名のように波状の鋸歯があり、下部は葉軸まで切れ込みます。谷の湿った崖地に生育します。

図 11. ノコギリヘラシダ

〇シラン（ラン科）

ラン科植物は一般に菌類と共生するためか、栽培が難しいものが多いのですが、唯一例外としてシランがあります。この種は栽培しやすいので、古くから庭園に栽培されてきました。市内では烽火山の岩場に生育しているのを確認していますが、平山台から布巻町の蛇紋岩地帯にも多く生育しているのを発見することができました。乾燥し貧栄養な土壌のせいか、シランの葉は小さく、細いものでした。生育地は数ヵ所以上あり、合計 500 株以上生育していました。長崎県のレッドリストでは準絶滅危惧種、長崎市では絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

４　長崎市から絶滅した植物

〇ハマゼリ（セリ科）

長崎市内では琴海戸根町土井ノ浦に唯一生育地がありましたが、数年前からの調査では発見できませんでした。市内から絶滅したと思われます。

〇ヒナヒゴタイ（キク科）

全国的にも生育地が限られ、環境省にレッドリストでも絶滅危惧ＩＢ類に指定されています。生育地のほとんどが長崎県内で、五島や平戸、長崎市などに知られています。長崎市では脇岬町に 2 ヵ所、布巻町に 1 ヵ所に生育地がありましたが、2018 年の調査では発見することができませんでした。長崎市内からは絶滅した可能性があります。絶滅の原因は、風力発電所の建設、道路拡張工事、2018 年の夏の干ばつがあげられます。

〇ハマハナヤスリ（ハナヤスリ科）

長崎県では唯一長崎市牧島に生育していました。今年度、生育地を訪れ、詳しく調べましたが、かつて生育していた海岸は波の影響かすっかり土壌が流出し、発見できませんでした。最近訪れた台風の高波の影響と考えられます。